

# らららん7号



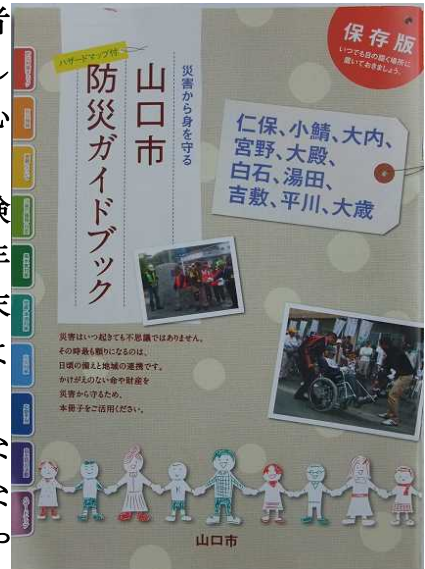
2018. 7. 18

## 豪雨被害に気をつけよう

6月末から7月上旬にかけて西日本を襲った豪雨は、死者や行方不明者を併せると二百名を超える大きな災害になりました。犠牲になられた方を悼み、また被害を受けられた方に心からお見舞いを申し上げます。

テレビでは「何十年に一度の豪雨」とか「これまでに経験したことのない雨」と言っていました。でも、もう「何十年に一度」という言葉は、毎年聞くようになりました。梅雨末期の豪雨では、被害が甚大になることが定番になっているように感じました。数年前の新聞記事で“地球の温暖化”は、単に気温が上昇するのではなく、気象のエネルギーが強くなることだと書いてありました。つまり、台風の勢力は強くなり、豪雨もその雨量が多くなるのです。今回、隣の広島県や岡山県、愛媛県で多くの犠牲者を出しました。もしたくさん雨が降ったエリアが少し西側になっていたら、山口県の被害も増えていたと思うのです。

今回の豪雨では、倉敷市真備の堤防が決壊し多くの人命が失われました。山口市でも浸水の可能性がある地域を“山口市防災ガイドブック(ハザードマップ付)”に示してあります。このマップは、市役所の入口に置いてあります。自分の住む所はどれだけの危険性があるのかを理解しておくことが大切です。また、浸水のときに、どのような方法で避難したらいいかも家族で話し合っておきましょう。既に梅雨明けになりましたが、台風に伴う豪雨もあるので、十分に気をつけましょう。



## チョコちゃんが大好き!!

最近よく見ている番組に、NHKの「チョコちゃんに叱られる」があります。決めゼリフの「ボーッと生きてんじゃねーよ!」と言って、真実を解き明かしていく話の展開が大好きになりました。

そのチョコちゃんが「なぜ人はペットを飼うのか?」という疑問を出し、大人たちは首をかしげました。番組では、犬を飼っている人々にも聞いていましたが、ほとんどが「癒されるから」と答えていました。

しかし、チョコちゃんの答えは「人間は群れで生活する生き物だったから」と人類の長い

歴史まで振り返るものでした。

大昔から人間は、群れで生活をしていました。それは自分の持っている食べ物や財産を、群れの中でお互いに分け与えるというしくみを持っていたのです。群れを維持するために、そのしくみは続けられたのです。そのため、分け与えることが幸せだということが、心に備わっていたのです。だから現代人にも、ものを分け与えて幸せを得ることが、脳にプログラミングされているらしいのです。

しかし、現代人は、群れでは生活していません。しかも、今は昔に比べ物が溢れた生活をしています。そのため、ペットを対象にして「分け与えたい」という気持ちを継続させているようなのです。ペットに物を与えて幸せを感じるというしくみは、人類の長い歴史の中で私たちにインプットされた習性というべきものでした。人が幸せを感じるひとつのアイテムとして、ペットを飼うことが入ってきたのです。子どもが「犬を飼いたい」と言うのは、人としての“さが”なのかもしれません。最初に答えた「癒やされるから」も、分け与える幸せを感じているからで、間違いではないと思いました。

遠い昔、縄文人と縄文犬の関係も深いものがあったようです。縄文人は、犬をととても大切に飼っていました。イノシシやシカを捕るための狩猟犬として飼われていましたが、狩猟には危険が伴うものでした。アクシデントで骨折などもあったようです。外傷や病気後も集落で大切に飼われ、死後も手厚く葬られた跡が残っています。この縄文犬は、現在の犬とは顔つきや体格もかなり違うようですが、その性質は柴犬、秋田犬に色濃く残っているそうです。犬と人との三千年以上前からの深い絆が、私を「柴犬がいいな」と思わせるわけだったのかもしれません。



## うれしくなったこと

毎日、接する子どもたちからいろいろな喜びをもらっています。そんなちょっとした一コマを紹介します。

- ・「あれ～、〇〇先生見なかった？」渡したい資料があったのです。すると男の子が「今、二階の部屋で見たよ。ぼくが持って行ってあげる」と言ってくれて、うれしくなりました。「じゃあ、お願いしていい？ありがとう」爽やかな風が吹いた気がしました。
- ・お昼に園長室へ子どもたちがやってきます。ピンクの紙がほしいのです。そして園長室には数冊の図鑑が置いてあります。子どもたちはこれを見ることができるようなのです。あるとき、3歳児同士で図鑑の取り合いになりました。そのとき5歳児の女の子が、ササッと間に入って仲裁をしてくれました。「いい？ここでケンカしたらだめなんよ。仲よくしないと」と話しました。ケンカした二人もすぐに落ち着きました。この女の子にとっても感心しました。しっかりとしたお姉さんに見えました。
- ・先日、ききら公園でたねダンゴを作りました。涼しい日陰でどろダンゴを作りました。土が手について苦労している中、上手に作っている二人の女の子がいました。「うまいね」というと「よくダンゴを作るから。私たちプロよ」自信のある声が返ってきました。自分が誇れるものがあることはいいです。確かに早くてきれいな仕上がりでした。